

電話帳サーバー「RTV01」を中核に、内線VoIP網を構築 通信コストの削減と運用管理の効率化を同時に実現

岐阜乗合自動車を中心とする岐阜バスグループでは、ヤマハルーターで構築した内線VoIPネットワークを活用し、大幅な電話料金の削減に成功した。5社28拠点の内線番号の管理には、電話帳サーバー「RTV01」を採用。VoIP環境における内線番号を一括管理し、作業工数を大幅に軽減している。加えて、RTV01が収集する通話履歴、障害履歴、統計情報などを利用し、回線配置の最適化に向けた戦略的な活用を行っている。



岐阜乗合自動車株式会社
グループ総務人事部 総務担当
主任
北川 満春 氏

回線コストの最適化と 使い勝手維持の両立を目指す

岐阜県を中心に54の乗合バス路線を運営する岐阜乗合自動車。同社は、貸切バスの岐阜バス観光、自動車整備の華陽自動車興業などの関連会社と共に、合計8社で「岐阜バスグループ」を形成している。

従来、岐阜市内では3社の乗合バス路線が重複していたが、2004年に名鉄バス、

2005年に岐阜市営バスが路線を譲渡し、岐阜乗合自動車に一本化された。

「3年がかりで進められた路線の一元化が完了したことで、当社の地域交通に果たす責任は一段と重くなりました。これからは、さまざまな部分でコスト削減を推し進めて、運営体制の効率化と利用者へのサービスレベルの向上に挑戦していかなければなりません」と、岐阜乗合自動車 グループ総務人事部 主任の北川 満春氏は語る。

内線電話のVoIP化に踏み切ったのも、経営体制の強化を背景とした、コスト削減が最大の目的であった。

「以前の音声電話は、公衆回線が中心で、岐阜バスグループ約30拠点のうちの6拠点だけが、音声専用線を内線に使っていました」と北川氏は振り返る。

音声専用線による内線電話は、3ケタの番号でダイレクト接続ができるため使い勝手は良いが、回線料金は高い。音声品質も、遠隔地同士では聞き取れないこともあったという。

こうした状況のもと、2005年11月の本社



株式会社メイエック
第2営業部 ITシステム営業課
サブリーダー

松本 誠司 氏



株式会社メイエック
電子通信部 情報ネットワーク課
シニアリーダー

葛谷 佳信 氏

移転をきっかけとして、音声ネットワークの再構築を決断。これまでの電話網構築を支援してきたメイエックに、「グループ全体の回線コストの最適化と内線電話の使い勝手の維持」という大きく2つの要件で、提案を依頼した。

内線VoIPの運用問題を一挙に解決する ヤマハ電話帳サーバー「RTV01」

この依頼を受けメイエックが提案したのは、2005年4月にデータ系ネットワークのために整備したばかりのインターネットVPN網の活用だった。これは、ヤマハが提供するイーサアクセスVPNルーターのRTX1500とRTX1100で7社30拠点を結ぶ、シンプルで効率の高いスター型のネットワーク。ちなみにこのネットワーク構築に関しては、データ系ネットワークに強いメイテツコムが担当している。

このインターネットVPNを利用してVoIPを上乗せすれば、新たな投資を抑えながら、音声系の回線料金を低減できる。しかし、バス会社の内線電話は、運行の安全を守る

うえでも重要な存在であり、コストだけで判断することはできない。検討を重ねている段階で、決定打になったのが、ヤマハが発売した電話帳サーバー「RTV01」だった。

「RTV01を使えば、VoIPネットワークの全拠

点の内線番号を一括管理できます。例えば、拠点を増やす際も、番号を拠点ごとに再設定することなく、一括して変更することが可能です」と、メイエック 第2営業部 ITシステム営業課 サブリーダーの松本 誠司氏は話す。

それでも、「電話帳サーバー」という今までになかった製品であるだけに、検討は慎重に行った。

「名古屋で開催されたヤマハルーター代理店のセミナーへ北川様にも同行して頂き、実物とその画面を実際に操作しながら、質問して確かめました。そのうえで、RTV01を利用した内線VoIPソリューションは岐阜バスグループにとって最適であると判断して提案を決めたのです」と、松本氏は語る。

自席にいながらにして 通話履歴や障害履歴を即座に把握

RTV01は、3週間かけて更改した28拠点へのVoIP導入の際にも威力を発揮した。

「各拠点へ導入を開始した後でも、内線番号のつけ方を簡単に見直すことができ、あれこれ試行錯誤しながら最適な番号体系を探っていきました。内線番号のつけ直しが簡単にできるRTV01があったからこそ、納得のいく番号の管理体系を作り上げることができたのです」と北川氏は評価する。

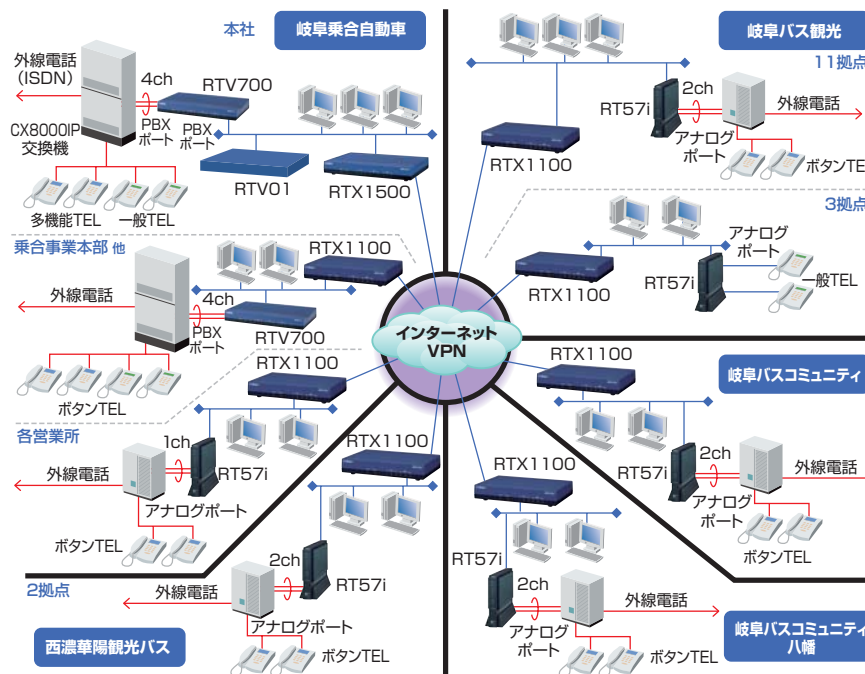
使い勝手の問題も、RTV01で解決。使い勝手の良い「事業所番号」を、内線VoIPネットワークで使用できるため、これまでのダイヤル手順を変えることなく内線電話のIP化が実現。外線による社内連絡が激減するなど、内線電話への切り替えが進んだ。

さらにRTV01は、通話履歴、障害履歴、統計情報、拠点情報、通話状況をGUI画面に一覧表示することも可能だ。



岐阜乗合自動車の本社に設置された「RTX1500」、「RTV700」と「RTV01」

図 ネットワーク概要図(約30拠点)



「万一、何らかの原因で内線が繋がりにくい状況が発生したとしても、オフィスの席にいながらにしてWebブラウザを使ってトラフィック状況をチェック。その場で利用者に状況を伝えることができます。また、履歴・統計情報はCSV形式で出力できますから、Excelに取り込み、経営トップへの報告書作成にも活用しています」と北川氏。内線電話のトラブル対応や質問への回答が迅速化されたことは、利用者だけでなく経営層の間でも話題になっているという。

また、通信に障害が発生した際、自動的にメールで通知される点も大きなポイントだ。RTV01の管理画面は、メイエックからも監視できるようにしている。そのため、設定レベル以上のエラーが発生した時は、それを知らせるメールが来るので、北川氏とメイエックが同じ画面を見ながら、電話で即座に対応を協議できるのだ。

「RTV01はハードとソフトが一体化になったアプライアンス製品であるため、保守管理の手間もかかりません。もしPCソフトウェアベースのSIPサーバーだったら、セキュリティパッチをあてたりバージョン管理をしなければならぬなど、PCそのものの手間が加わってしまいます」とメイエック 電子通信部

情報ネットワーク課 シニアリーダーの葛谷 佳信氏は述べる。

使い始めてまだ1ヵ月程度であるため、内線VoIP化によるコストメリットは測定できていない。しかし、常時1日に700~800通話の内線がやりとりされていることと、専用線の年間約100万円の回線料金が不要になったことから類推して、年間200万円以上の削減が見込めるという。

さらに、ほぼ全拠点に内線電話の導入が完了し、グループ内のコミュニケーションがとりやすくなったというメリットも生まれている。今後は、未導入の関連会社への導入を目指し、RTV01が収集する情報を最大限に活用していく考えだ。

お問い合わせ



ヤマハ株式会社
ヤマハルーターお客様相談センター
RTX1500・RTX1100のお問い合わせ先
TEL 053-478-2806 FAX 053-460-3489
ネットボランチャコールセンター
RTV700・RT571のお問い合わせ先
TEL 03-5715-0350
<http://NetVolante.jp/>
<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/>

PROFILE

岐阜乗合自動車株式会社
 本社：岐阜市九重町四丁目20番地
 設立：1943(昭和18)年4月21日
 資本金：3億4100万円
 売上高：49億7904万円(2005年3月期)
 従業員数：441名(2005年9月30日現在)
 関連会社：岐阜バス観光株式会社、株式会社岐阜バスコミュニティ、株式会社岐阜バスコミュニティ八幡、西濃華陽観光バス株式会社、奥濃飛白山観光株式会社、華陽自動車興業株式会社、株式会社ケイビーエスオート
 事業概要：名古屋鉄道グループの一員として、岐阜県を中心に54路線を運営する乗合バス会社。関連会社を含む8社で「岐阜バスグループ」を形成。地域に根ざした生活交通網の合理的な整備に取り組んでいる。
<http://www.gifubus.co.jp/>